

## 足元の金の相場環境について

### 金が4か月振り高値水準に

- ✓ 足元の金は、4か月振り高値水準となっており、堅調な展開となっています。4月の米CPI（消費者物価指数）が市場予想を上回るなどインフレ加速への懸念が高まるなか、インフレに強い資産とされる金に注目が高まっていることや、コロナショックからの景気回復基調にある中国で金需要が大きく高まっていることなどが、背景にあると考えられます。
- ✓ また、代表的な仮想通貨であるビットコインから金への資金流入が起こっている可能性があります。足元の金とビットコインの価格は逆相関となっています（図1）。ビットコインは、発行上限の制約からインフレに強いとされ、決済やサービスでの利用拡大も期待されるなか、昨年10月頃から非常に堅調に推移していました。しかし、中国人民銀行（中央銀行）が仮想通貨を決済手段として認めない方針をあらためて示したことなどにより、足元では軟調となっています。資産としての歴史が浅く価格変動が大きいビットコインより、伝統的資産かつ安全資産とも言われる金の方が、インフレに強い資産として選好されているのかもしれませんが。

### インフレのヘッジや安全資産としての需要で上昇する傾向にある金

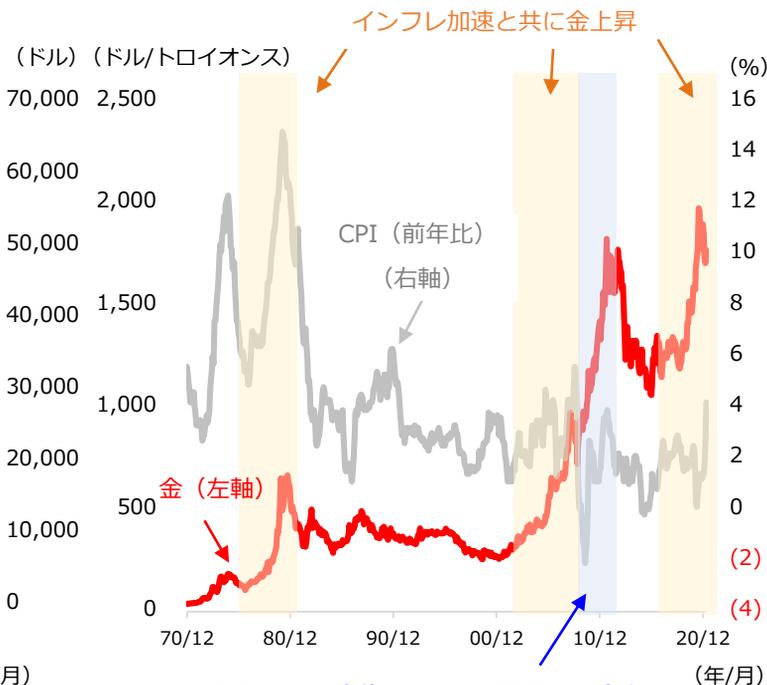
- ✓ いまのところ、FRB（米連邦準備理事会）をはじめとする金融当局者の間では「インフレ加速は一時的である」という見解が大勢となっています。しかしながら、銅など商品価格が高騰するなか、期待インフレ率は足元上昇傾向にあり、市場でのインフレ加速への警戒感が高まっています。
- ✓ インフレ加速が持続した場合、お金に対するモノの価値が上昇するなかで、現物資産の中でも特に信用力がある金への需要が高まりやすいと言われています。過去にもインフレ加速と共に、金が大きく上昇することがありました（図2、黄色で囲った期間）。また、金には安全資産としての需要でリスクオフ局面で買われやすい傾向もあり、リーマンショック直後で景気が落ち込みインフレが減速するなかでも、金は堅調に推移しました（図2、青色で囲った期間）。インフレへのヘッジや安全資産への需要で今後も金価格の上昇が続くのか、注目されています。

（図1）ドル建ての金とビットコイン



期間：2020年5月29日～2021年5月26日、日次  
出所：ブルームバーグもとにちばぎんアセットマネジメント作成  
※金価格：金スポット価格（米ドルベース）

（図2）金とCPI（消費者物価指数）



期間：1970年12月末～1979年12月末、月次  
出所：ブルームバーグもとにちばぎんアセットマネジメント作成  
※金価格：金スポット価格（米ドルベース）

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料はちばぎんアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的とした上記日時における当社の意見です。投資に関する最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。加えて、この資料に記載された当社の意見ならびに予測は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。